桜蔭中学校　二〇一八年度　入学試験

国語　－解答－

一　問一　a　交遊　b　中腹　c　夢中　d　談笑

問二　1　イ　2　ウ　3　エ　4　カ　5　ク

問三　A　・久しぶりにかえちゃんに会えたから。
・ずっと入ってみたかった芥薬に小さくなったことで入れたから。

B　・小さくなったじいじとばあばが、かえちゃんを仲間外れにして遊んでいたから。
・小さくなろうとしているところを邪魔されたから。

問四　かえちゃんがお母さんのお腹に宿る前までは、影も形もなかったということ。

問五　かえちゃんにはこれから幸せな人生を送ってほしいという思いを込めたが、言葉にしてもその意図は伝わらず、今はがっかりさせるだけだと考えたから。

二　問一　a　茶化す　b　足　c　提起　d　訳知り

問二　主観にすぎないものを議論しても仕方がない

問三　目の前にコップがあり、その感触を確かめたとしても、それは視覚と聴覚の情報を知覚して人の脳が作ったいかにも現実の世界にいるかのような空間の中に存在しているだけで、知覚した情報が本物かどうかを確かめる方法はないという考え。

問四　イラク戦争において、人々が死んでいくような悲惨な映像ではなく、多国籍軍が正確無比なミサイル攻撃で敵の軍事施設だけをピンポイントに少しも外すことなく狙ったように感じる映像ばかりが、多国籍軍への批判が出ないようにする意図で流された。

問五　世界中の人々がリアルタイムに情報を共有できるということは、検証し、淘汰されるという前の信用できない情報までも共有してしまうということになるにもかかわらず、インターネットによって真実を共有できるようになったと考えること。

問六　インターネット上ではリアルタイムで情報が更新され、人々はリアルタイムな情報を求めてインターネットを利用する。すると、年月とともに検証、淘汰されて信用に足りるものになる前の多数の情報が共有されることになり、受け取り手にとってはどれが真実かわからなくなる。すると、人々は根本的な心理として、探そうとした見たい情報を真実として受け取りたくなるため、その心理を逆手に取ることでニセモノの情報を真実として広がりやすくつくることができる。自身にとって有利な政治的・経済的な風説をつくることでフェイクニュースの作り手は大きな利益を得ることができるため、フェイクニュースが無くなることはない。

データ作成：株式会社インターエデュ・ドットコム
模範解答協力：株式会社学究社